

問1 近代日本の国家形成において、伊藤博文が果たした役割とその背景について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。

(2018年 鹿児島県公立入試 類似)

- プロイセン（ドイツ）の憲法を調査し、天皇に強い権限を持たせ立憲君主制の構築を目指した。
- 自由民権運動の要求に応え、イギリス流の議院内閣制と国民権をいち早く導入しようとした。
- 民衆の支持を得るために自由党を結成し、内閣制度の創設よりも先に国会の開設を実現させた。
- アメリカの合衆国憲法を模範とし、大統領制を導入することで内閣の権限を弱めようとした。

問2 1873年に起こった明治六年政変では、征韓論を主張する西郷隆盛らが政府を去ることになりました。このとき、岩倉使節団から帰国した大久保利通らが、西郷らの主張に反対した主な理由として適切なものはどれですか。 (2017年 京都公立入試 類似)

- 外国との戦争よりも、まずは国内の体制を整えて近代化を進めるべきだと考えたため
- 朝鮮との貿易を拡大するよりも、清（中国）との同盟を優先すべきだと考えたため
- 武士の特権を維持するために、徴兵制の導入を一時的に中断すべきだと考えたため
- 不平等条約の改正交渉に成功した直後であり、新たな外交問題を防ぎたかったため

問3 明治時代から大正期にかけての日本の近代化に関する記録をまとめた資料の中で紹介されている人物についての問題です。著書『学問のすゝめ』を著し、「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらずと言えり」という一節で、人間の平等と学ぶことの大切さを説いた啓蒙思想家は誰ですか。 (2022年 山口公立入試 類似)

- 福沢諭吉
- 板垣退助
- 大隈重信
- 伊藤博文

問4 明治時代における立憲体制の確立と、その後の近代化の過程について説明した次の記述のうち、出来事の順序として正しいものはどれか。なお、記述は「民撰議院設立建白書の提出」「第1回帝国議会の開会」「日清戦争の勃発」「治安維持法の制定」の4点について述べています。 (2020年 島根公立入試 類似)

- 民撰議院設立建白書が提出された後、第1回帝国議会の開かれ、その後日清戦争が始まり、さらに後の時代に治安維持法が制定された。
- 第1回帝国議会が開かれた後に民撰議院設立建白書が提出され、日清戦争を経て、治安維持法が制定された。
- 日清戦争が勃発した後に第1回帝国議会が開かれ、民撰議院設立建白書の提出、治安維持法の制定と続いた。
- 民撰議院設立建白書の提出、日清戦争の勃発、第1回帝国議会の開会、治安維持法の制定の順で進んだ。

問5 明治時代の自由民権運動において、板垣退助らが「自由党」を結成した主な目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2025年 山口公立入試 類似)

- 国会の開設に備えて、フランス流の自由主義を広め、国民の意見を政治に反映させる準備を整えるため
- イギリス風の穏健な立憲政治をモデルとして、都市の中産階級や知識人を組織するため
- 武力によって明治政府を打倒し、江戸時代のような幕藩体制を復活させるため
- 天皇による親政を強化し、内閣制度や議会制度を廃止して絶対王政を確立するため

問6 明治政府が1875年に樺太・千島交換条約を締結し、さらに翌年までに小笠原諸島の領有を各国に認めさせた背景にある、当時の外交方針として最も適切なものはどれですか。 (2023年 石川公立入試 類似)

- 周辺諸国や欧米列強との間で、日本の主権が及ぶ範囲（国境）を明確にするため。
- 不平等条約を改正するための交渉材料として、領土を拡大するため。
- ロシアの南下政策に対抗するため、清（中国）と軍事同盟を結ぶ準備をするため。
- 東南アジアへの進出を目的として、南方諸島の防衛を強化するため。

問7 田中正造が足尾銅山鉱毒事件をめぐり、国会などで政府を厳しく批判した理由として、当時の社会背景をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 島根公立入試 類似)

- 銅の生産と輸出をさらに増やすため、鉱山の管理権を民間から政府へ移すべきだと考えたから。
- 富国強兵や産業の発展を優先し、農民の生活や健康に甚大な被害を与えている政府の姿勢を問題視したから。
- 渡良瀬川の氾濫を防ぐための治水工事を中断し、その予算を軍費に回すよう提案するため。
- 鉱山で働く労働者の賃金を引き上げ、欧米並みの労働環境を整えることが近代化の条件だと主張したから。

問8 1894年に調印された日英通商航海条約によって、日本は領事裁判権の撤廃に成功しましたが、この時点でも依然として解決されず、1911年まで持ち越された課題は何ですか。 (2015年 歴史公立入試 類似)

- 日本が自ら輸入品に税率をかけることができる権利（関税自主権）の完全回復
- 日本国内の特定の港以外での外国人の居住を認める制度の廃止
- 朝鮮半島における日本の排他的な経済活動の承認
- 他国に与えた最も有利な条件を自動的に適用する最恵国待遇の廃止

答え合わせ・解説

問1	答え 1 プロイセン（ドイツ）の憲法を調査し、天皇に強い権限を持たせる立憲君主制の構築を目指した。	伊藤博文はヨーロッパへ渡って憲法調査を行い、君主権の強いプロイセンの憲法を高く評価しました。これは、当時の日本における自由民権運動の過熱を抑えつつ、天皇を中心とした安定した統治体制を確立するという政府の目的に合致していたためです。
問2	答え 1 外国との戦争よりも、まずは国内の体制を整えて近代化を進めるべきだと考えたため	岩倉使節団として欧米諸国を視察した大久保利通や木戸孝允らは、日本と西洋諸国の圧倒的な国力の差を痛感しました。そのため、国外での武力行使（征韓論）を優先するのではなく、まずは内政を充実させて国力を蓄えるべきであるという「内治優先」の立場をとったことが対立の原因となりました。
問3	答え 1 福沢諭吉	西洋の近代思想を日本に紹介し、封建的な身分制度を否定して、個人の自由や平等を尊重する社会への転換を促しました。また、慶應義塾を創設するなど、教育を通じて近代化を支える人材の育成にも尽力しました。
問4	答え 1 民撰議院設立建白書が提出された後、第1回帝国議会が開かれ、その後に日清戦争が始まり、さらに後の時代に治安維持法が制定された。	自由民権運動の始まりである民撰議院設立建白書の提出（1874年）から、大日本帝国憲法発布を経て第1回帝国議会が開会（1890年）されるまでが立憲体制の確立期です。その後、1894年に日清戦争が起こり、大正時代末期の1925年に社会主義運動などを取り締まる治安維持法が制定されました。
問5	答え 1 国会の開設に備えて、フランス流の自由主義を広め、国民の意見を政治に反映させる準備を整えるため	自由党は、1890年に予定された国会開設に向けて、民間の政治勢力を結集させるために組織されました。同党はフランス流の急進的な自由主義的思想を背景に、農村の地主や農民層を中心に支持を広げました。一方、イギリス流の立憲政治を目指したのは大隈重信の立憲改進黨です。
問6	答え 1 周辺諸国や欧米列強との間で、日本の主権が及ぶ範囲（国境）を明確にするため。	明治政府にとって、近代国家として国際的に認められるためには、自国の領土の範囲を明確に定めることが急務でした。そのため、北の樺太・千島だけでなく、南の小笠原諸島の領有宣言や、琉球処分の断行などを通じて、周辺地域との国境を画定し、日本の主権を確立しようとしてきました。
問7	答え 2 富国強兵や産業の発展を優先し、農民の生活や健康に甚大な被害を与えている政府の姿勢を問題視したから。	明治政府は近代化のための外貨獲得手段として銅の輸出を重視しており、足尾銅山は重要な産業拠点でした。そのため、鉱毒被害が明らかになっても操業停止などの抜本的な対策を避け、産業発展を優先しました。田中正造は、国民の生命や財産を守るべき政府が、産業（資本家）を優先して犠牲を強いている矛盾を鋭く追及しました。
問8	答え 1 日本が自ら輸入品に税率をかけることができる権利（関税自主権）の完全回復	陸奥宗光による1894年の条約改正では、領事裁判権の撤廃には成功したものの、関税自主権については一部の回復にとどまり、完全な回復には至りませんでした。日本が自国の判断で関税率を決定できる権利を完全に取り戻したのは、日本が国際的な地位を高めた日露戦争後の1911年、小村寿太郎が外務大臣を務めていたときです。